まなべ

校訓　健康　勤労　協和

元気と夢を育む真鍋小学校

学校便り　No.９
土浦市立真鍋小学校（小中一貫校）
令和６年３月２７日（水）
文責　近藤　恒重

卒業生が巣立っていきました

３月１９日（火）に挙行された第１３８回卒業式は天気にも恵まれ、厳かな雰囲気の中で無事終了しました。今年度はたくさんのご来賓の方々に参列いただきました。１４３名の卒業生も真新しい中学校の制服に身を包み、緊張の中にも堂々とした態度で式に臨んでいました。最後は会場からの拍手に見送られ，希望に満ちた表情で新しい一歩を力強く踏み出していきました。真鍋小学校を卒業したことを誇りに思い、堂々とこれからの道を歩んでいってもらいたいと思います。

令和５年度修了式を行いました

３月２２日（金）に令和５年度の修了式を行いました。式の中では５年生の野口侑珠さんが１年間をふり返って、がんばったこと反省したことを発表してくれました。全校児童には１年間の自分の成長をしっかり自覚し，新年度の目標をしっかりと持ってほしいと思います。学年の代表児童に修了証を手渡しましたが，さすがに学年の代表だけに，立派な態度で証書を手にしました。式辞では，これまで話してきた「夢や目標を達成するために努力すること」、「友達のいいところを見つけること」をこれからも継続してほしいと話しました。次の学年でも頑張ってくれることを期待します。

土浦市読書感想文コンクール

令和５年度土浦市児童・生徒読書感想文コンクールにおいて、本校３年藤原侑奈さん、５年田仲美晴さんが優秀賞を受賞しました。３月２２日（金）の修了式の前に二人の読書感想文の発表を行いました。

３年の藤原さんは『化石のよぶ声がきこえる』という本を読み、「わたしがいまできる事」という題名で感想文を書きました。本を読んで心に残ったこととして、二つのことをあげています。一つ目は、主人公が住んでいる場所が昔は海だったことから、自分が住んでいる関東地方を調べたら、関東地方も昔は海であることを知り、上高津貝塚ふるさと歴史の広場の見学をした際、主人公も自分と同じようにワクワクした気持ちになったのかなと思ったこと。二つめは、主人公が子どもの頃から好きだったことが大人になってからの仕事になったことは素敵なことで、自分も今大好きなバスケットボールを通じてあいさつを含めいろいろなことを学び、いつ将来の仕事を決めるときが来るかわからないが、そのときに役立つよう、自分が好きなことを通していろいろ学んでいきたいということでした。

５年生の田仲さんは、『犬部！』という本を読んで、「命の大切さを感じて」という題名で感想文を書きました。犬部のある大学の獣医学部の学生達が、ペットを手放したい飼い主に引き取り手を探すようアドバイスしても聞き入れられずに保健所に連れて行ってしまう人がいることや犬をたくさん飼っている人が、飼い方の知識がなかったため、犬がどんどん増えてしまったことで、たくさんの人に迷惑をかけてしまったという現実から、一人で世話ができる犬の数を飼えるようにすればこんな迷惑をかけなかったのにと気づきました。現在殺処分される犬猫の数が大分減ったことに疑問を持ち調べた結果、動物愛護団体の存在が社会に知られ、動物を保護する活動が広がったこと、また、茨城県では昨年と今年犬の殺処分数がゼロだったのは、動物愛護団体や保健所の職員さんが小さな命を守るために努力しくれているということを知り、一人一人の頑張りが必要だということを理解しました。そして、「全ての動物には人間と同じように感情があることがわかったので、もっとペットの気持ちに寄り添って、世界一幸せにしてあげたいなと思った。」としめくくっています。

二人とも、本に書いてある内容について自分の考えを書くことはもちろん、自分の経験や疑問に思って調べたことを書いているのがとてもいいところだと思います。受賞おめでとうございます。

校長室より

１年間ありがとうございました

就任１年目、なんとか終わることができそうです。今年度，保護者・地域の方々，そして常日頃から真鍋小学校を支えてくださっているすべての方々に感謝を申し上げます。１年間のご支援・ご協力ありがとうございました。令和６年度も元気にスタートしていきます。よろしくお願いいたします。